第2回市民憲章等審議会 要約会議録

1 開催日時：平成20年7月4日（金） 午後2時開会 4時10分閉会

2 場 所：天草市役所 庁議室

3 出席者：

委員 荒木会長、高田副会長、橋口委員、河内委員、濱本委員、荒平委員、永田委員、
仁田委員、谷委員、大塚委員、連尾委員、松本英二委員、上委員
(欠席者 洲崎委員、松本郁子委員)

事務局 濱企画課長、福田課長補佐、小川企画調整係長、松下主任

4 内 容：1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 市民憲章等の制定に伴う意見等の募集について

(2) 市のシンボルの選定について

(3) 市民憲章の制定について

(4) その他

4 閉会

5 会議の概要

(1) 市民憲章等の制定に伴う意見等の募集について

・市民憲章等の制定に伴う意見等の募集要項に基づき募集を行う。

・要項の主な内容は

募集方法：市政だより天草7月15日号及び市のホームページにより募集する。

募集期間：7月15日から8月14日までの1カ月間。

募集する項目：市のシンボル（花・木・鳥・魚など）の名称と選んだ理由。

市民憲章の本文と市民憲章に盛り込みたいことば。

応募用紙：市政だより天草の中に募集とともに、応募用紙も併せて掲載する。

本庁・企画課および各支所に備える。

市ホームページから様式をダウンロードできるようにする。

〈主な意見など〉

(委員)

○応募資格は、記入するようになくてもよいのか。

(事務局)

○応募資格は天草市民だけでなく、市出身者や天草を思われている方に、応募していただくということで考えている。

(委員)

○前回の審議会で未来の天草市を担う子どもたちからも意見を出してほしいということだったので、学校に配布して、先生たちにお願ひして子どもたちに書いていただくというのが、可能であればぜひお願ひしたい。

(委員)

○メディアへのPRは広報紙だけか。

(事務局)

○役所内にある記者クラブへも情報提供を行いたい。

(2) 市のシンボルの選定について

- ・応募されたものから、委員の投票により10点を選び、その中から審議会で決定する。
- ・選考にあたっては、①「天草という地域の特性を表しているか」②「地域住民が常日頃親しんでいるという感覚があるか」③「市域全体で触れる（見る）ことができるか」などシンボルとしての原理・原則を設定し、その原理・原則に基づいたものかどうかという視点で選定する。

〈主な意見など〉

(委員)

○普通は応募数が多かったものを決定するというのが当然だが、合併した本市の場合は、人口の多い地区の意見が一番多くなるため、応募の多かったものもある程度優先しなければならないが、応募数によって決定するのはよくない。シンボルの原理・原則を考えて委員で選ぶとかなければ、中心地の人の意見が一番多くなると思う。

(委員)

○天草という地域の特性は、現在を問うものか、将来を問うものか、あるいは過去の天草のすばらしい時代を問うものかを明確にしたほうがよい。

(委員)

○50年、60年先に天草市がどのような環境に向かって、また計画していくのかを考えて、テーマにしたほうが目標があってよい。

(委員)

○合併前の町民憲章が決まったときも、町がずっと続くだろうと思って憲章が決まったと思う。ところが天草市として合併した。これから何十年後か先もどうなるかわからないと考えたとき、私たちが住んでいる今を大事にしていきたいということで、現在に重きをもって、それを次の子どもたちにつなげていくようにしたらどうか。

(委員)

○未来のことは市民憲章に反映させて、シンボルは現在の天草の中で一番と思われるものでいいのではないか。

(委員)

○現在のシンボルを選ぶわけなので現在でいいと思う。以前シンボルを決定したとき、決まった以上は将来までずっと保護し、育てる財産だということでまとめた。将来にこれを残したいという気持ちが第一だと思う。

(委員)

○選考方法としてまず最初に5個に決めて、次の機会に3つに絞って、最終的に1つに絞るという風にどんどん絞っていくオリンピックのような選考の方法はどうか。

(委員)

○1回の審議会で1回選定するのは、3回でというのであれば3ヵ月必要であり時間的に無理ではないか。

(委員)

○集計して応募数が多かったものから10番目までの項目から委員で選ぶということでもいいのか。

(委員)

○応募数がわずかなものでも、素晴らしいものがある可能性があるわけだから、数で絞らずに応募されたものから、委員が選んだ方がよい。

(委員)

○委員が15名いるので応募のあったものから1点ずつ出して、その中から絞っていけば少ない総数でも重要だと思う人がいれば選ばれてくるので、そういう選び方もいいのではないか。

(委員長)

○第1段階は裾野が広がった方がよい。ただ、各委員1個にすると一発勝負みたいに何となく決まりそうな気がする。

(委員)

○「委員の投票により5点を選び」とあるが、委員の投票で10点候補となった場合、委員が選んだものの中から5点は選考するものから除かれることになるが。

(委員)

○委員が選んだ5点の中には、数の問題ではなくて、5点選べば1点くらいはそれぞれの地域の特性とかいろいろなものが出てくる。それがシンボルの決定にどのように影響するかが選考するのに大事。

(委員長)

○鳥でも木でも花でも魚でも、地域によってどの程度違いがあるのか。あまり変わらないというのであれば問題はないが、違いがあるというのであれば応募された方々によっては数的な形で現れてくる。すると、人口が多いところから出されたものが量的圧力としては大きくなってしまう。その危険性をなるべく避けて、地域の特性を反映した要素も加味した選び方をとらないといけないのではないか。第一段階としては5点ではなく10点に幅を広げておいてはどうか。

(3) 市民憲章の制定について

- ・小委員会で応募による案と委員からの案を議論し、取りまとめる。

- ・小委員会の委員は高田副会長、上委員、連尾委員、仁田委員、荒平委員、永田委員の6名とする。

〈主な意見など〉

○特になし。

(4) その他

- ・市民と行政の協働指針を事務局で素案の素案のようなものを考え、それをたたいて市民・と行政の協力・連携の考え方、方法、効果を明らかにできるようにまとめていく。
- ・他自治体の市民と協働の協働指針を事務局で取り集め、委員へ次回の審議会で配布する。

〈主な意見など〉

(委員)

○市民と行政の協働指針について話し合いたいが、取りかかりがつかめずにいるので、他の市町村の資料を次回いただきたい。

(委員)

○憲章やシンボルをどのように活用していくかが一番大事である。市長は憲章やシンボルなどを決めてくださいと言ったが、活用について審議会で議論しなくてもよいのか。

(委員長)

○審議会は市の附属機関としての位置付けのため、市長からの諮問について答申を出すことで一応終わる。答申したものは、行政、いわゆる市長が受け止めて、政策の中で展開していかなければならない。審議会でそこまでフォローしていくことは、この審議会の役割を超えた事柄になると思う。あとは、せつかく審議会で出した結論を実践していきなさいよと、市長にけしかけていく以外、方法はないのではないかと思う。それが、市民と行政の協働につながってくると思う。協働できるかできないかは、行政のレベルもあるが、市民のレベルも問われるということだと思う。